

令和4年度
「魅力ある学校づくり地域協議会」
活動事例集



第8号 令和5年3月

宇都宮市教育委員会事務局 生涯学習課

目 次

| | |
|---------------|----|
| 清原北小学校地域学校協議会 | 1 |
| 陽北中学校地域協議会 | 2 |
| 細谷小学校地域協議会 | 3 |
| 豊郷北小学校地域協議会 | 4 |
| 桜小学校地域協議会 | 5 |
| 古里中学校地域協議会 | 6 |
| 晃宝小学校地域協議会 | 7 |
| 築瀬小学校地域協議会 | 8 |
| 瑞穂野北小学校地域協議会 | 9 |
| ゆいの杜小学校地域協議会 | 10 |
| 姿川中学校地域協議会 | 11 |

平成27年度から発行してまいりました「活動事例集」も、今年度の発行で、全ての地域協議会における活動を紹介することができ、最終号となります。

全地域協議会及び学校関係者の皆様には、活動事例集の作成にあたり、当日の取材対応など御協力をいただき、誠にありがとうございました。

今後とも、地域全体で子どもを育む「地域の教育力」の向上に向けて、皆様の御協力をお願いいたします。

「協議会委員による地区の環境点検」

- 7月28日（木）、地域協議会委員8名による「環境点検」が行われました。この取組は、子どもたちの安全な登下校の環境づくりを目的に、平成24年度から継続して実施しています。
- 点検を効率的に実施するため、数名の委員が事前に下見を行い、問題箇所や危険箇所を写真入りでわかりやすく資料にまとめてくださったおかげで、当日は、円滑に点検作業が進みました。
- 参加した委員からは、「この場所は、バイパス道路が渋滞すると、抜け道として多くの車がスピードを出して通るので、とても危ない。」「この空き家の中に児童が入って遊んでしまうと、大けがをする可能性がある。」などの声が聞かれ、子どもたちを守る視点から多くの意見が交わされました。
- 今回の点検を踏まえ、後日、打合せを実施し、情報を共有するそうです。行政や警察に対応を依頼するもの、自治会として対応するもの、学校として対応するもの…など、関係機関と連携しながら、地域全体の問題として取り組んでいます。



↑ 事前下見でまとめた資料



↑ 活発な意見交換の様子



↑ 草や樹木が道路まで伸びていて、歩行者と車がすれ違う際は危険↑



↑ 道路表示が消えている状態

【学校の声】

毎年、防犯や交通安全の視点で環境点検をして関係機関に要望し、子どもたちの生活環境が改善されており、協議会の皆様には大変感謝しています。昨年は、ガードレールやLEDの外灯が設置され、嬉しい限りです。

コロナ禍により地域協議会主催の講演会など、例年とおりの活動が行われない状況ですが、今後も、地域学校協議会と学校が力を合わせて、より充実した学校生活を送れるよう活動していきたいと思っています。

【地域協議会の声】

変化の速い昨今、子どもたちの安全面に配慮した環境点検は継続してこそ意味があると思いつけています。

また、地域協議会では、日頃の活動を通して子どもたちが地域の方々と接することで、見える世界が広がる礎になれば良いと考えています。そして、子どもたちが自分の範囲を積極的にはみ出して大きく羽ばたくことを楽しみにしています。

【いいね！】

通学路における悲しい事故や事件が各地で相次いでいるなか、この取組は、「地域ぐるみの子育て」を行う上で、最優先事項である、「子どもたちの命を守る」ということに直結するものです。活動中、皆様の言動からは、地元への愛着や子どもたちへの愛情がひしひしと伝わってきて、感動しました。



学校と連携した、伝統ある「陽北よさこい連」への活動支援

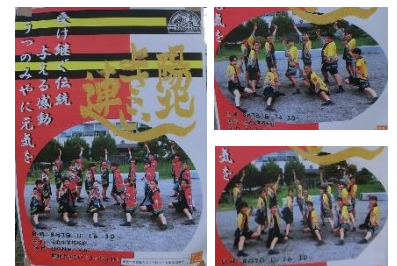
- 「陽北よさこい連」は、平成15年から続く、陽北中の伝統ある活動です。発足当初は、3年生をメインとした構成でしたが、今では、1年生から3年生までの選抜チームで活動しています。地域協議会の役割としては、主に広報面でのサポートを行いながら、子どもたちの活動を応援しています。
- 令和4年の宮まつりは、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、開催数日前の突然の中止により、披露の場が失われてしまいました。
- 陽北中の良き伝統を守り続けるため、また、生徒、保護者、地域の方々の思いに応えるべく、地域協議会と学校が連携し、校庭でのよさこいを披露することを決定しました。実は、令和元年から令和3年まで、新型コロナウイルス感染症等の影響による中止が続き、その都度、伝統を途切れさせないようにしてきたノウハウがあり、今回に生かすことができた経緯もあります。
- 地域協議会の思いとして、校庭での披露は、子どもたちの努力を無駄にしないための「代替案」であり、やはり、宮まつり当日の大通りでの披露は、生徒にとって一番の晴れ舞台なので、来年こそは本会場での披露を目指し、地域協議会としても活動へのサポートを継続するとの思いを聞くことができました。
- 会場となった校庭には、広報用ポスターが3種類掲示してありました。この日のためのポスターを作成し、会場名は、「陽北中学校校庭」と記されていましたが、最後まで、応援する姿勢を見せてくれた地域協議会の取組に大変感動しました。



【結団式での「気合い入れ」】



【躍動感のあふれる舞を披露】



【広報用ポスター】

【学校の声】

今年度こそ、陽北よさこい連の本来の活動である宮まつりへ参加すべく、地域協議会の皆様と準備を進めていました。しかし本番直前の中止、本番翌日に校庭での発表に……。でも、そこには伝統を自ら引き継ごうとする3年生を中心に、その晴天のごとく、一寸の曇りもなく躍動する生徒たちの姿がありました。清々しく若さあふれるパフォーマンスは、感謝の気持ちと良き伝統を引き継ぎ伝えようとする意志にあふれていました。

【地域協議会の声】

地域の方からの声として、「子どもたちの演技を見ると元気がもらえます。」「子どもたちの成長に感謝します。」など様々なご意見をいただいています。今後も、子どもたちが踊る限り、サポートを続けていきたいと思います。今後も学校と協力し、協調性を大切にしながら、地域協議会の活動を行っていききたいと思います。

【いいね！】

学校と地域が連携し、伝統ある取組を作り上げ、それを継承しています。生徒は、学校や保護者、地域からの応援を背に演技を行い、達成感や感謝の心を体感します。地域は活動の継続に力を注ぎ、その行動が地域とのつながりを生み、良好な関係を生み出している好事例です。



待ちに待った「稲刈り体験」



- 細谷小学校では、2年生と5年生の授業で田植え・稲刈り体験があります。この日は、3年ぶりの稲刈りをしました。
- 地域協議会長の説明を聞いて、子どもたちはそれぞれ、手を大きく広げて稲の集まった株の根元をつかみ、鎌をギコギコ動かして太い束を刈り取ります。刈り取った後の落ち穂拾いも真剣です。
- どんどんコツをつかんで、2学年3クラスが順繰りに作業して、きれいに刈り取りできました。保護者ボランティアの皆さんの見守りのおかげで、安全に作業できました。
- 細谷小学校の田植え・稲刈りは、食農体験学習の先駆けとして昭和61年に始まり、その後、近隣小中学校にも広がりました。
- 田んぼの持ち主でもある地域協議会長は、「ここまで続くとは思っていなかったが、子どもたちには様々な体験をしてもらいたい。普段触れられない米作りの知識としても、楽しい思い出としても大事なこと。」とのこと。細谷小に教育実習で戻ってきた大学生も、「この田植え・稲刈りのことを覚えています」と話してくれたそうです。
- 地域で子どもたちを育て、地域にまた戻ってきてくれる好循環が、確実に根付いています。

しっかり刈れたよ！



刈ってすぐにコンバインで「脱穀ショー」！

【学校の声】

地域の方のご協力で、「田植え・稲刈り」や「読み語り」など、子どもたちの記憶に残る活動を、長年継続していただいています。協議会やPTA、おやじの会など、様々な地域の方が、細谷っ子が「やさしく」「つよく」「かしこく」育つのを、温かく支えてくださっています。

今後も、子どもたちに体験や学びの機会を、地域と連携して提供していきたいと思えます。

【地域協議会の声】

田植え・稲刈り体験は、食べるものを育てて収穫する一連の流れを子どもたちが実体験できる機会です。コロナ禍でできなかった期間の子どもたちからは「稲刈りできるのが羨ましい」とも聞いています。

できるものを可能な形でやっていくなど、子どもたちの未来につながる活動を今後も継続していきたいです。

【いいね！】

学校での授業に、地域・保護者が協力して、長年の活動を実現しています。

多くの関係者と子どもたちが「ナナメの関係」となっており、未来を担う心豊かでたくましい宮っ子を地域で育てる仕組みができています。



「豊郷北小あいさつ向上大作戦！」

- 学校生活や地域生活において、誰に対しても明るくさわやかなあいさつができる児童を育成するため、年間を通して「豊北小あいさつ向上大作戦！」に取り組んでいます。
- 学校だけではなく、家庭、地域と連携し、三位一体となってあいさつ意識の向上を目指しています。
- 取組の1つとして、本学区が児童の声と笑顔で明るくなることや、学校生活において児童がより一層温かい人間関係を育むことを願い、地域協議会と学校が連携し、あいさつの標語を児童と保護者から募集しました。児童から94作品、保護者から37作品の応募がありました。
- 地域協議会委員と学校職員が審査し、9月28日の下校前に、最優秀作品1点（児童）と優秀作品4点（児童2点、保護者2点）の表彰式と、横断幕・のぼり旗のお披露目を行いました。
- 初めに、地域協議会長の松田さんが、子どもたちへメッセージを伝えました。「あいさつは、する人もされる人も気持ちよく、元気にしてくれます。あいさつは人と人をつなぐ大切なものです。」
- 横断幕は3階ベランダに、のぼり旗は校内や通学路に設置する他、地域でのぼり旗を立ててくださる方を募集し、あいさつ強化週間に合わせて設置していただいています。また、年間をとおして地域にあいさつポスターを掲示していただいています。
- 「あいさつ向上大作戦！」は、今後も定期的に行い、児童だけではなく、教職員、保護者、地域住民のあいさつ意識が向上するように取り組んでいきます。



優秀作品のお披露目会



地域の方にも「ありがとうございます」のあいさつ



小中一貫あいさつ運動

【学校の声】

学校に地域の方の思いを伝えていただいている地域協議会委員から、地域でもあいさつができる子どもに育てほしいという声がありました。そこで、地域協議会と協力して、「あいさつができる豊北っ子」を目指し、「あいさつ向上大作戦！」を昨年スタートしました。

これからも、学校のため、子どもたちのためという地域の声に、しっかりと耳を傾け、地域協議会と協力しながら地域ぐるみの活動に取り組んでいこうと思います。

【地域協議会の声】

昨年度から取り組んできた「あいさつ向上大作戦！」により、子どもたちは自然にあいさつができるようになってきて、あいさつに対する意識が変わってきていると感じています。多くの保護者や地域の方に関わっていただき大変感謝しています。

これからも、学校、家庭、地域と連携を深めながら、子どもたちを見守ってまいります。

【いいね！】

保護者や地域の方の思いを基に、子どものあいさつについて現状を分析し、活動の目的、具体的な施策を明確に設定しています。

保護者からも標語を募集し、のぼり旗を地域にも掲示することで、大人のあいさつ意識の向上も目指していて、「学校を核とした地域づくり」の活動となっています。

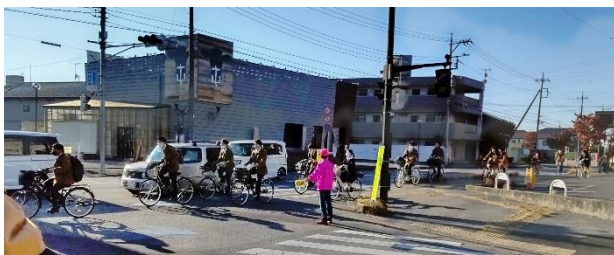


地域ぐるみで交通安全を見守り 「桜^{さくらはち}8^ひの日運動」

- 桜小学校の学区内には、自動車の通行量が多い道路や、歩道が狭い場所などがあります。桜地区では、交通安全推進協議会や自治会、地域協議会などが連携し、毎月8日を目安に、地区内の朝の見守りを実施しています。今回の取材では、そのうちの1か所に伺いました。
- この日参加した6名は、お揃いの桜色帽子に桜色ジャンパーを着て、電柱4か所に蛍光イエローの看板を立てて、交差点の角に分かれて立ちました。信号が変わると、「交通ルールを守りましょう」などの手持ち札をかざしながら横断歩道に出て、自動車に注意を促します。登校する児童に、「おはよう！」と声をかけると、あいさつや笑顔が返ってきました。
- 小学生の登校がひと段落ついたら、今度は通学する中高校生や通勤途中の社会人が多くなります。自動車も自転車も急いでおり、この交差点の交通量はかなりのものになりますが、地域の方の誘導もあって、この日も事故なく見守りが終わりました。
- 地域の安心安全を守る活動に地域ぐるみで取り組んでいます。



子どもたちの安全を確保



高校生の自転車と通勤する自動車が続々と通過



通勤通学が落ち着く時間まで見守りました

【学校の声】

学校から離れた場所でも地域の方に見守っていただいて、大変心強く感じています。長年継続してくださっている読み聞かせやあいさつ標語表彰などの活動もお世話になっています。また、地域協議会の会議や活動は、桜小児童のためはもちろん、地域の幼稚園や児童養護施設などとの連携の機会にもなっています。今後も、子どもたちがたくましく成長する姿を、地域と学校がともに見守っていきたいと思います。

【地域協議会の声】

桜色のジャンパーと帽子を子どもたちが覚えてくれて、笑顔で話しかけてくれることもあります。「地域の大人は頼りになる」と、子どもたちが思ってくれたら嬉しいです。コロナの影響で思うように活動できないこともありますが、これからも子どもたちの気持ちを大切に、積極的に取り組んでいきたいと思っています。

【いいね！】

小学生だけでなく、中高生や通勤者なども対象に、地域の安全と交通マナーの向上に寄与する活動に取り組んでいます。子どもたちの気持ちに寄り添う姿勢は、子どもたちのたくましさや思いやりにも良い影響があります。



誰でも学習支援が受けられます！「ふるさと未来塾」

- 古里中学校地域協議会は、自習する生徒の学習を支援するため、「ふるさと未来塾」を令和元年度から続けています。
- 部活動を行わない毎週水曜日の放課後に、中学校に隣接する河内生涯学習センターに会場を複数用意し、生徒たちは宿題や塾の教材などを持参して自習します。分からないことがあれば、学習支援員の先生が教えてくれます。
- 学習支援員の先生には、海外での生活を経験した英語の得意な方と、理工系の大学を卒業したパソコンに強い数学の得意な方の2人のほか、古里中学校の臨時採用の先生も応援に来てくれています。お話をうかがうと、「生徒たちは学校で聞けなかったことを結構質問してくれて、個別に詳しく教えることで生徒の勉強の役に立ってるのが嬉しい」「素直で真っすぐな生徒たちに先生と慕われ、かえって元気をもらっている」とのことでした。また、支援員の2人は車いすを利用されていますが、会場の生涯学習センターがバリアフリーのため地域貢献ができるので嬉しいとのことでした。
- 生徒たちは、「勉強する習慣がついた」「勉強が分かるようになって、成績が20点上がった」「先生が優しく、勉強以外のことでも話し相手になってくれる」と話していました。
- 生涯学習センターが年間を通じて会場を提供してくれるので、開塾日がわかるカレンダーを記載したクリアファイルを作成し、学校を通じて全校生徒に配付しています（右の写真参照）。
- 家族が迎えに来るまでの居場所などにも活用することができ、学校や家庭の理解、協力のもと、希望する生徒にはいつでも誰でも自由に学習支援を受けられる環境が整っています。



感染対策として「1人1机」で間隔をとっています



分からないところは1対1で聞くことができます

| | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 4月 | 20日 | 27日 | | |
| 5月 | 11日 | 18日 | 25日 | |
| 6月 | 1日 | 8日 | 22日 | 29日 |
| 7月 | 6日 | 13日 | 20日 | 27日 |
| 8月 | 31日 | | | |
| 9月 | 7日 | 14日 | 21日 | 28日 |
| 10月 | 5日 | 19日 | | |
| 11月 | 2日 | 9日 | 16日 | 30日 |
| 12月 | 7日 | 14日 | 21日 | |
| 1月 | 11日 | 18日 | 25日 | |
| 2月 | 1日 | 8日 | 15日 | |
| 3月 | 1日 | 8日 | 15日 | 22日 |

地域協議会活動の広報用の印刷物として生徒の手元に

【学校の声】

教員が直接的には関わらない地域協議会の事業として、学校での授業を補う形で生徒の学習を支援していただけることは、学習習慣の定着や基礎学力の向上につながり大変有難いことであり、心強く感じています。

希望する生徒が学習支援を受けられるよう、優れた指導者の方々などのご協力をいただきながら、恵まれた地域環境を生かして事業を継続していただくことを期待しています。

【地域協議会の声】

人柄的にも魅力的な学習支援員が顔見知りの大人としていつでも来ているので、子どもたちも安心して利用してくれているようです。

利用する生徒たちの笑顔を見るたびに、この活動を続けて良かったと思います。

これからも、支援を願う生徒たちのための活動に励んでいきたいと思っています。

【いいね!】

紙の通知ではなく、文房具のクリアファイルに地域未来塾の日程が記載してあるので、捨てられず日常的に日程の確認ができます。

分からないことがあればいつでも気軽に質問ができる場所があることは、生徒たちの安心にもつながります。



「落ち葉掃きボランティア」

- 寒さが増して冬を迎えるこの時期に、落ち葉掃きボランティアの方が、年に2回、校庭や駐車場などに舞い落ちて溜った落ち葉を集めてくださいます。この活動は今年で3年目となり、これからも毎年継続して実施していこうと考えている活動です。
- 実施に向けて、自治会長の皆さんに地域の方々へ協力を呼び掛けていただいています。地域協議会の会議の中でも、委員に声を掛けています。
- 落ち葉掃きボランティアとして、各自治会の代表者や防犯パトロール、敬老会などの方々にご協力いただき、今回は、20名ほど集まって活動しました。
- 朝、登校後の6年生が自主的に落ち葉掃きをしてくれていて、それを引き継ぐように、落ち葉掃きボランティアの方々が8時15分に集合して活動を始めます。
- 校庭周りや遊具の近く、飼育小屋周辺、正門から昇降口までの子どもの通り道など、子どもたちが安全に登下校したり遊んだりすることができるように、溜った落ち葉を集めていきます。前日の雨で葉っぱが水を含み、掃きづらくなっていましたが、ボランティアの皆さんは、場所を変えながら時間いっぱい掃き続け、葉っぱの山があちこちにできていました。
- 活動日ではなくても、地域の方が自主的に子どもたちの通学路に落ちている葉っぱを掃いてくださることもあり、地域で子どもたちを見守っていただいています。



昇降口へ向かう通り道を掃きます



前日の雨で葉っぱが取りにくくなっています



集めた葉っぱを協力して袋に入れます

【学校の声】

子どもたちのために、今回の活動や見守り活動などのボランティアを、いつも多くの地域の方々が快く引き受けてくださり、大変感謝しています。地域ボランティアの様々な活動を実施していく中で、地域の方々と子どもたちが関わる時間を大切にしていくとともに、コロナ禍における、子どもたちがボランティアへの感謝の気持ちを伝える機会や方法について考えていきたいです。

【地域協議会の声】

地域の方々の「地域の中の学校にしていこう」という思いが強く感じられる活動です。コロナ禍で、朝も早い中、たくさんのボランティアの方々に協力をいただけて、とてもありがたく思います。子どもたちが、寒い朝に自分たちの学校を大切に思ってくれている大人がいることを知り、感謝の気持ちと「自分もいずれば」という思いをもってほしいと願っています。

【いいね!】

集合時間を待たずに、それぞれが学校に到着次第、活動を始めたり、周りの人の活動状況を見ながら自分の活動場所を決めたりするなど、ボランティアの方々は、限られた時間の中で積極的に活動していました。子どもたちが安心・安全な生活を送ってほしいと願った「地域とともにある学校づくり」の活動となっています。



総合的な学習「未来予想図」夢授業

- 築瀬小学校では、12月3日（土）に、総合的な学習「未来予想図」の学習で、6年生を対象に夢授業が行われました。この取組は学校と地域協議会が協力して行っており、10年以上続いている活動です。
- 今回は、パティシエ・味噌製造・パン屋・印染め・花屋の職種の5名の方をゲストティーチャーとして迎え、仕事内容や経験談、やりがいなどについてお話を伺いました。「目標をもって、頭も心も体も成長してほしい」などの言葉に、子どもたちは目を輝かせながら真剣に耳を傾けていました。
- 学校と地域協議会の連携手法としては、学校が子どもたちに将来の夢についてのアンケートを行い、上位を占めた職業の講師をお呼びするため、地域協議会が講師交渉を行います。その際は、築瀬小学校OBや宇都宮市出身の方に講師をお願いすることで、地域の魅力発見となるよう、さらに、地域との関係を密にしていけるよう工夫しているそうです。
- 当日、地域協議会委員は、講師対応や写真撮影、発表時のパネル持ちを行うなど「子どもたちのため」に裏方として学校側と連携しながら授業を支えていました。
- コロナ禍で授業数などの関係により、例年とおりの活動が難しくなってきた中、学校と地域が協力し合い、講師の人数や実施時間を調整しながら夢授業を続けています。今後の展望として、「子どもたちが自らゲストティーチャーにお話を聞きに行けるような環境づくり」を目指しているそうです。



↑ 授業中の様子



↑ 発表補助の様子



↑ 印染めの講師から法被を見せていただきました

【学校の声】

夢授業はキャリア教育の一環として行っており、子どもたちが講師の経験や苦労話を聞くことで将来のことを考えるきっかけになるよう、地域協議会と協力し、毎年開催しています。特に、講師交渉を地域協議会の方に手伝っていただけることはとても助かっています。

今後も、子どもたちが未来予想図を考える機会を提供できるよう、地域協議会と連携して活動を行っていききたいと思います。

【地域協議会の声】

学校と地域協議会がお互いに頼り合うなど、つながりが強いと感じています。地域協議会として、子どもたちと直接かわる機会はありませんが、学校と地域をつなぐ架け橋のような存在になればと思います。今後も、「子どもたちのために」をモットーに、地元パワーでさまざまな取組を行っていきたいと考えています。

【いいね!】

学校と地域協議会の密接な関係と的確な役割分担のおかげで、長年、活動が継続していることを実感することができました。

学校と地域協議会が「子どもたちのため」を第一に、真剣に考えて様々な活動を支えており、宮っ子を育てる仕組みが構築されていました。



3年ぶりの開催！「瑞北フェスティバル」

- 12月3日（土）の午前に、瑞北フェスティバルが開催されました。感染症拡大の影響で、開催されたのは3年ぶり。今回は、感染症対策として活動時間や活動の種類を工夫して実施しました。
- 学校行事の一貫でもあることから、地域協議会だけでなく、地域のボランティアやPTAの方々も多数参加しました。
- 瑞北フェスティバルの前半は、日頃学校で活動している地域協議会やボランティアの方々をお招きし、児童会主催の「感謝の会」を行いました。全校児童からの感謝状や歌のプレゼントで、日頃の感謝の気持ちを伝えました。
- 後半は、「ふれあい活動」を行いました。ボランティア講師の方々に教えてもらいながら、児童はお手玉や絵手紙を作ったり竹とんぼを飛ばしたりと、様々な活動を楽しみました。事前に地域協議会の方が、生地の裁断や竹とんぼの作成等の準備をしてくださったおかげで、当日は円滑に活動ができました。一人で行うことが難しい作業は、ボランティア講師の方々が積極的に手助けをし、児童の活動をサポートしていました。
- 夢中になって活動する児童には笑顔が溢れ、その姿を見た地域の方々もまた笑顔になる—そんな充実した活動となりました。



【お手玉】一緒にお手玉づくりをし、できた後はみんなで遊びました



【竹とんぼ】自分で最後の仕上げをした竹とんぼ。飛ばすコツを伝授してもらいました



【ペーゴマ】巻き方を練習中。うまく回せるかな



【絵手紙】尖らせた割り箸に墨汁をつけて描き、絵の具で色付け



【感謝の会】児童全員で日頃の感謝の気持ちを伝えました

【学校の声】

地域の方々に日頃の感謝の気持ちを伝えたり、地域の方々と交流したりできる「瑞北フェスティバル」は、児童の心の成長に繋がる活動となっています。「子どもたちの笑顔を見たら、これまでの準備の苦労なんて吹き飛ばすよ」と仰ってくださる温かい心の皆さん。これからも、地域協議会やボランティアの方々と手を携えながら、人との繋がりの素晴らしさを児童が実感できるよう、様々な交流の場を設定していきたいと思っております。

【地域協議会の声】

瑞穂野北小学校は児童数が少ない学校ですが、その分学校と地域が一体となって、子どもたちの成長をより近くで見守っています。

これからも子供たちが様々な活動を通して、経験や楽しさを積み重ね大きく成長できるよう、また、活動を継続できるよう、学校と連携しながら頑張っていきたいと思っております。

【いいね！】

地域協議会やボランティアの方々が、児童と一緒に活動したり喜んだり、児童に寄り添いながら活動している姿がとても印象的でした。

保護者も参観できたため、「子どもたちが地域の方々に支えられている」ということを保護者が実感できる機会となっていました。



授業支援を通して子どもたちの体験をサポート

- ゆいの杜小学校は、令和3年度に清原中央小学校から分離して開校し、地域協議会の活動も同時にスタートしました。今回取材した「むかしあそび体験（1年生活科）」の授業支援は、清原中央小学校の頃から実施しています。
- はじめに、体育館に集まって児童からはじめのあいさつとボランティアの皆さんの紹介を行い、その後、児童は班に分かれて10種類の昔遊びを体験しました。
- ボランティアの方々は、それぞれのブースで子どもたちのサポートをします。竹馬では「手と足を一緒に動かすよ。」、竹とんぼでは「勢いよく手を引いてみて。」など、それぞれの昔あそびのやり方や、コツを教えます。また、「羽根つきについている黒い玉は、昔は「むくろじ」という植物の種を使っていたんだよ」と、実際に取ってきたむくろじを子どもたちに見せるボランティアの方もいて、子どもたちにとって新しい発見もある時間となりました。



地域のボランティアさん
「膝を使うとうまくいくよ」



児童「めんこを初めて見たよ」

今回実施した昔あそび

竹とんぼ、羽根つき、缶ぼっくり、竹馬、めんこ、お手玉、けん玉、コマ回し、ヨーヨー、だるま落とし



地域の方に教えてもらったコツを… → 友達にも教えてあげる！

支えてもらったら乗れたよ

【学校の声】

ゆいの杜は、平成20年に始まったテクノポリス地区の開発に伴い造成されたニュータウンですが、以前から地域をよく知っている方々が地域協議会委員や地域コーディネーターを務めてくださっているため、学校と地域をつなぐ大きな役割を果たしていただいています。これからも地域の方と連携した学習や活動を考え、人との触れ合いや地域を大切にする子どもたちの気持ちを育てていきたいと思っています。

【地域協議会の声】

地域のボランティアの募集は地域協議会で、保護者のボランティアの募集はPTAのアプリを使って募集しています。学校に出入りする機会があると、子どもたちが顔を覚えてくれるので、校内で会ったときにあいさつをしてくれるのがうれしいです。地域協議会の授業支援のほかにも、親学出前講座の活用など活動の幅を広げていきたいです。

【いいね！】

学校と地域協議会で役割分担を行いながら活動しています。活動の呼びかけをすると、50名くらいのボランティアが集まり、子どもたちの活動への関心が高い地域だと感じます。体育館や校庭からたくさんの笑い声が聞こえ、子どもたちにとっても大人にとっても素敵な時間になりました。



地域の教育資源を活用した「姿川地区文化財ウォーキング」

- 「姿川地区文化財ウォーキング」は、地域協議会発足のころから続く、伝統ある取組です。生徒と保護者、地域住民の方などを対象に、自分たちが住む姿川地区の自然や歴史についての説明を聞き、地元への愛着を深めるだけでなく、参加者どうしのコミュニケーションを深めることも目的として行っています。
- 今回は、「戊辰戦争の跡を辿る」がテーマです。ただし、実施直前に、中学校で、新型コロナウイルス感染症の感染者数の増加傾向が見られ、安全面の配慮から、生徒の参加は中止となり、保護者と地域住民の方のみで実施しました。開始前、PTA 会長からのあいさつの中で、「子どもたちが今、郷土の歴史や文化を学ぶ『宇都宮学』を行っており、この取組は、その『宇都宮学』を大人が体験できる良い機会」との話があり、その視点から考えると、「大人」だけでも非常に価値のある取組ではないかと感じました。
- 現地での説明を受けた後、普段は外からしか見られないところも、中に入って見学ができました。また、移動中、戊辰戦争の話以外にも、「昔はここに〇〇があった」とか「こんなところに〇〇がある」、さらに、「このお店のしもつかれがおいしい」などの話し声を耳にしました。実は、交流をする上で、同じものを見たり聞いたりする活動をする、会話が弾みやすい傾向があります。この手法は、生徒と地域の方々とでコミュニケーションを取りやすい具体例とも言えます。
- 今回の取組は、学校の協力を得て、学校のホームページを活用し、保護者及び地域への活動報告を行うことができました。



出発前に「姿川歴史と文化の会」によるコース説明を受けました



薬師如来堂



福智院

説明後、実際に建物の中を見学しました。貴重な経験でした



普段歩きなれている道にも新発見があるかもしれませんね

【学校の声】

花いっぱい、元気いっぱい姿中生がコロナに負けず、安心安全に学校生活を送れるようご支援いただきありがとうございます。

「グリーングリーン花いっぱい運動」の花壇整備、落ち葉掃きボランティア、ミシンボランティアや調理実習など様々な活動で、with コロナの視点から「どうすればできるのか」「どこまでならやれるのか」等、様々な工夫を凝らしながらご協力いただきました。引き続きよろしく申し上げます。

【地域協議会の声】

コロナ禍ではありますが、地域協議会としての活動をできる範囲で継続してできています。今後も、この「文化財ウォーキング」を、地域協議会主催の伝統ある取組として、大切にしていきたいと思えます。また、たくさんの生徒が興味をもって、楽しみながら参加してもらえるような内容についても、検討していきたいと考えています。

【いいね!】

地域資源を活用した取組を継続することで、地域内での体験者が年々増加し、多くの方が地元の「宝」に関する認識ができ、同時に大切に思う心の育成にもつながります。また、終了後すぐに、次回の構想について、地域協議会長と推進員とで意見交換をしている姿も素晴らしかったです。



社会総ぐるみによる人づくりの「合言葉」

『育もう 地域の愛で 子どもの未来』

～大人が子どもの手本となり，みんなで人間力を高めます～

「魅力ある学校づくり地域協議会」

活動事例集 第8号

| | | |
|-----------|----------------------------------|--------|
| 発行：令和5年3月 | 宇都宮市教育委員会事務局 | 生涯学習課 |
| 〒320-8540 | 宇都宮市旭1丁目1番5号 | 宇都宮市役所 |
| TEL | 028-632-2679 | |
| FAX | 028-632-2675 | |
| E-mail | u4606@city.utsunomiya.tochigi.jp | |
